

5. 1 消防本部による活動

(1) 栗原市

ア 栗原市災害対策本部及び警防本部の設置

地震災害発生と同時に市役所（講堂）に災害対策本部、消防本部（防災研修室）に警防本部をそれぞれ設置し、災害への対応、対策にあたった。

イ 消防職員の参集状況

栗原市消防活動規程に基づき自主参集した職員の状況は、表 5.1.1 のとおりである。

地震の発生が 8 時 43 分と勤務交代時間の直後であったこともあり、1 時間以内に 90 パーセント以上が参集した。なお、実働職員 143 人中、当日の非番者、週休者は 101 人である。

表 5.1.1 消防職員の参集状況

単位(人)

時間・所属	本部	本署	若柳分署	栗駒分署	小計	比率(%)
30分以内	11	34	11	14	70	69
30分超～1時間以内	10	2	5	4	21	90
1時間超～2時間以内	1			2	3	93
2時間超	3	1	2	1	7	100
小計	25	37	18	21	101	
当務者	4	19	9	10	42	
合計	29	56	27	31	143	

ウ 119番入電状況

地震発生直後から 119 番通報の入電があり、その状況は表 5.1.2 のとおりで、火災の発生がなかったため、救急、救助と照会に関するものが主であった。

表 5.1.2 119 番の入電状況

(6月14日の地震発生時から12時まで)

区分	火災	救急	救助	調査警戒	その他	計
8:43～9:00		4	1	1	5	11
9:00～9:30					3	3
9:30～10:00		3	1	2	4	10
10:00～10:30		2			5	7
10:30～11:00					4	4
11:00～11:30					5	5
11:30～12:00					4	4
計	0	9件	2件	3件	30件	44件

※ その他の主なものは、災害等の照会、災害の情報提供、間違いである。

エ 栗原市消防職員及び消防団員の活動状況

職員及び団員は、地震発生直後から各災害発生現場に出動し救出、救護活動、被災情報の収集及び被災者の保護等にあたった。

表 5.1.3 栗原市消防職員活動人員
 (6月14日から7月16日まで)

災害場所等	延 人 員
災害現場	691人
ヘリポート	128人
災害対策本部	76人
警防本部	128人
計	1,023人



写真 5.1.1 駒の湯現場へ向かう消防団員

表 5.1.4 栗原市消防団員活動人員 (5.2も参照)
 (6月14日から7月16日まで)

地区名等	延 人 員
災害対策本部	42人
築 館	192人
若 柳	155人
栗 駒	254人
高清水	109人
一 迫	295人
瀬 峰	129人
鶯 沢	270人
金 成	161人
志波姫	94人
花 山	222人
計	1,923人



写真 5.1.2 駒の湯現場の行方不明者捜索活動



写真 5.1.3 行者の滝周辺の行方不明者捜索活動

第5節 消防本部・消防団による活動

(2) 奥州市

奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部は、10:37 通報によりマイクロバス転落事故（18 人）を覚知した。現場の高檜能山に入る林道へ DMAT（災害派遣医療チーム）を案内しながら、救助に向かい、航空自衛隊救難隊及び防災航空隊との連携のもと全員を救助した。

この他、各地域で起きた油流出事故への対応、緊急消防援助隊との連携、災害対策本部本部員会議への出席など、関係機関と一体的に応急対策にあたった。

マイクロバス転落事故への対応の経緯は表 5.1.5 のとおりである。

表 5.1.5 マイクロバス転落事故への対応の経緯

時刻	内容																													
10:37	高檜能（たかひのう）山に入って行く林道で「ブナの観察会」（メンバー60 歳代 17 人）が乗車したバスが、土砂崩れに遭遇し、土砂埋没している模様。この情報は、バスに乗車していた T 氏が「ひめかゆ」に助けを求めたことにより覚知する。																													
10:38	中隊長以下の 3 隊編成を指示する。 救助隊（土砂掻出し隊）10 名 救急隊（救急水沢 1）3 名 救急救助物品輸送隊 3 名 さらに、水沢消防署長は多数の負傷者発生が予見されることから、岩手県消防相互応援協定に基づき、北上消防本部に救急隊 2 隊、消防組織法に基づく緊急消防援助隊の救助部隊の受援手続及び県立胆沢病院へ医師の出動要請を決定する。																													
10:40	本案件の前に胆沢ダム工事現場（「ひめかゆ」近く）の救助事案に出動していた水沢救助隊から、バスは、土砂埋没ではなく道路逸脱で転落危険大。 この情報により、活動物品の積替え及び出動隊を再編成を行い、出動隊を編成する。県立胆沢病院では、DMAT（災害派遣医療チーム）を編成する。																													
10:57	活動物品の積み込みを終える。 物品は、以下のとおり。																													
	救急用品	毛布	14	救急用品	多数傷病者用コンテナ（別掲）	1 箱																								
		応急ベッド	9		トリアージシート	1																								
		救急バッグ	1	災害派遣用品	飲料水（ペットボトル）	20																								
		バックボード	1		飲料水（ポリタンク）	3																								
		外傷セット	1		非常食（カンパン）	2 箱																								
		酸素（ボンベ）	13	その他	スコップ	15																								
		酸素（レサシ用）	1		ブルーシート	2																								
		ネックカラー	3		バスケット担架	1																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">多数傷病者用コンテナ 収容物品</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゴム手袋（M）</td> <td>3</td> <td>感染防護衣</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>ゴム手袋（L）</td> <td>2</td> <td>ビニール袋</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ゴーグル</td> <td>3</td> <td>シーネ</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>トリアージ標識（布）</td> <td>1</td> <td>ビニールテープ</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>緊急消防援助隊横断幕</td> <td>2</td> <td>ネックカラー</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>						多数傷病者用コンテナ 収容物品				ゴム手袋（M）	3	感染防護衣	10	ゴム手袋（L）	2	ビニール袋	1	ゴーグル	3	シーネ	5	トリアージ標識（布）	1	ビニールテープ	1	緊急消防援助隊横断幕	2	ネックカラー	8
多数傷病者用コンテナ 収容物品																														
ゴム手袋（M）	3	感染防護衣	10																											
ゴム手袋（L）	2	ビニール袋	1																											
ゴーグル	3	シーネ	5																											
トリアージ標識（布）	1	ビニールテープ	1																											
緊急消防援助隊横断幕	2	ネックカラー	8																											
	不足の救助物品は、胆沢ダム工事現場の救助事案に出動している水沢救助隊から、先行事案終了後に転戦することを依頼して出動する。																													

第5節 消防本部・消防団による活動

11:09	指揮隊出動
11:17	奥州金ヶ崎消防本部隊、やけいし館到着。 通報者から以下の情報を得る。 ①バスの乗員 17 名。うち数名がバスから脱出済み。 ②若柳橋（石淵ダム堰堤直下）から先は道路寸断、車両走行不可 ③若柳橋から現場まで 5km 以上 ④現場は道路上でバスは転落していない。 ⑤現場道路と谷底の高低差は約 50m
11:35	若柳橋から入山。山崩れによる道路寸断箇所多数あり。先行隊員 6 名で先行し、後続隊員は石淵ダム堰堤北側からのルートを示す。
11:55	増強の救急水沢 2 隊が到着。 指揮隊を含む後続隊、石淵ダム堰堤北側に車両部署。救急隊を除く全隊、物品を携行し入山。（救急水沢 2 隊は入山）
12:00	DMAT 統括者より DMAT 隊（大船渡病院・花巻厚生病院連合チーム）をマイクロバス転落事故現場へ出動させるため、災害現場まで案内依頼あり。
12:20	上記内容を消防本部災害警防本部に報告（電話、無線混信のため警防本部へ直接出向）
12:40	①胆沢病院到着、DMAT 隊（大船渡病院・花巻厚生病院連合チーム）と合流、今後の活動方針を検討 ②災害現場の位置、負傷者情報がまったくつかめないままの出動は、二次災害の発生の危険ありと判断し、情報の収集及び活動方針について、消防本部に戻り警防本部と調整を図る。 DMAT 隊（6 名）
13:15	先行隊、現場直前の林道上で航空自衛隊救難隊による救出を確認する。（8 名救出）
13:30	先行隊、現場到着する。 バスは谷へ転落（約 30m）している。林道上にオレンジ着衣の負傷者がおり、以下の情報を得る。 ①バスの乗員は運転手を含め 20 名。 ②先にバスから脱出した者は青森ヘリで救出された。 ③バスには 9 名いたが、自分ともう 1 名がバス脱出。 ④残った 7 名のうち重傷者が複数いる。 これらの情報を受け、転落したバスへ向かう。負傷者がバスの外で横たわっている。先行隊員で応急処置を開始。間もなく、航空自衛隊救難隊による救出が開始される。 ※防災波は、海上保安庁が実装しているが他機関については不明である。
14:20	大船渡、花巻厚生合同の DMAT 隊が石淵ダム管理事務所到着する（大船渡病院救急車他 1 台）。待機中の救急隊から災害現場への侵入ルート等を聞取る。
14:30	青森防災ヘリが石淵ダム管理事務所着陸 バス転落事故の関係者 3 名を北上救急隊が収容（負傷者 1 名、けが無 2 名） けが無 2 名のうち、1 名（S 氏）を情報収集のためダム管理事務所確保する。 S 氏からの情報でけが人は 8 名ぐらい、自衛隊のヘリが残りの負傷者をピックアップする内容を聴取。
14:31	北上救急隊はまごころ病院へ向け現場出発する。
14:45	ダム管理事務所の待機救急隊は、水沢高校へ転戦する。（今後、負傷者はヘリで水沢高校へ搬送する情報を得る。）
14:49	航空自衛隊救難隊、水沢高校着陸。（2 回目、負傷者 3 名）救急隊へ引渡し。
14:50	大船渡、花巻厚生合同の DMAT 隊は、バス転落現場で救助・救出活動が始まっている状況から、活動方針を変更し、着陸予定のヘリポートで活動することにする。 ダム管理事務所から引揚げする。
15:20	Y 課長以下、後続の地上隊が到着する。
15:26	航空自衛隊救難隊、水沢高校着陸。（3 回目、負傷なし 1 名、負傷者 3 名）救急隊へ引渡し。
15:40	プナ原生林を守る会：S 氏をバス事故関係者一次待機場所（南公民館）へ収容
15:44	航空自衛隊救難隊、水沢高校着陸。（4 回目、負傷者 1 名）救急隊へ引渡し。
15:45	航空自衛隊救難隊のヘリコプターによる救出の 4 回目でバスに残された負傷者 7 名、通報

第5節 消防本部・消防団による活動

	者のT氏及び一度はバスから脱出したが負傷者救出に戻ったB氏を加えた9名の救出が完了する。
15:50	地上隊でバス周辺を負傷者の有無を捜索
15:55	航空自衛隊救難隊、水沢高校着陸。(5回目、負傷者1名) 救急隊へ引渡し。
16:00	傷病者なしと判断し、全隊引揚げ開始
18:14	石沢ダムから車両に搭乗し引揚げる。

(3) 一関市

一関市消防本部は、地震の覚知と同時に警防本部を設置し災害対応に当たった。

ア 職員対応の状況

表 5.1.6 職員の参集状況

活 動 内 容	隊 数	人 員	活 動 内 容	隊 数	人 員
救助活動	2 隊	6 名	緊急消防援助隊対応	15 隊	32 名
救急活動（人員搬送含む）	9 隊	29 名	ヘリポート警備	21 隊	69 名
危険物漏洩	17 隊	49 名	巡回警備	14 隊	38 名
被害調査等	56 隊	125 名	物資搬送	13 隊	22 名
捜 索	9 隊	28 名	食料搬送	13 隊	28 名
広 報	5 隊	19 名	その他	83 隊	193 名
合 計		257 隊			638 名

イ 地震に起因する 119 番通報件数

8 件(6 月 14 日)

ウ 国及び県への災害報告

国（消防庁）に対して、地震発生 12 分後の 8 時 55 分、消防本部で震度 5 強を観測したこと、119 番通報の受信は 1 件であることを第 1 報として一般加入電話を通じて報告した。その 2 分後、同様の内容を県総合防災室に報告した。その後、毎日ファックスを通じて県に対する定期報告を行った。

5. 2 消防団による活動

(1) 栗原市

栗原市消防団（1,924人（条例定数2,050人））の活動状況は、表5.2.1のとおりである。

表 5.2.1 栗原市消防団の活動状況

活動期間	平成20年6月14日 9時頃から 7月31日 17時頃まで		
活動内容 (複数回答可)	1. 脱出不能者の救助、2. 孤立した住民等の救出、3. 消火活動、 4. 水防活動、5. 住民等の誘導、6. 行方不明者等の搜索警戒、 7. 安否情報の確認、8. 広報活動、9. その他（分遣署勤務、給水活動）		
活動概要 及び 活動人員	年 月 日	活動人員	活 動 内 容
	平成20年6月14日 ～ 平成20年7月27日	792人	被害状況巡回調査活動（11日間） 孤立した住民等の誘導、安否情報の確認含む
	平成20年6月14日 ～ 平成20年7月25日	577人	行方不明者の搜索警戒等（22日間）
	平成20年6月14日 ～ 平成20年7月25日	354人	土砂災害警戒(降雨対策)活動(10日間) シート張り等
	平成20年6月24日 ～ 平成20年7月4日	221人	栗原市築館消防署分遣署対応（11日間） 消防吏員の搜索人員確保のため、消防団員が24時間体制で分遣署対応
	平成20年6月14日 ～ 平成20年6月19日	117人	断水地域給水活動（5日間）

(2) 奥州市

奥州市では、合併前5市町村の消防団が引続き、5区の消防団として活動している。また、連合消防団長を置き各区消防団の調整を行っている。

地震発生直後より、各区の消防団は現地災害対策本部や民生委員等と連絡をとりながら、災害時要援護者を含めた地域住民の安否確認を行った。

また、余震や雨による土砂災害を警戒しながら、警ら活動を頻繁に実施した。

連合消防団長は災害対策本部員会議、各区消防団長については現地災害対策本部員会議に同席し、被害状況の共通認識を図るとともに応急対策についても意見するなど市や関係機関との強い連携のもと積極的な活動を行った。

表 5.2.2 奥州市での消防団の活動状況

主な活動
・災害対策本部、現地災害対策本部出席（団長等）
・各区消防団の自主参集による、警戒、情報収集・災害発生箇所の巡回パトロール
・衣川区北股地区の自主避難した石生集落の警戒・パトロール
・6月19日20:30 増沢ダム上流の土砂せき止めにより、大雨警報発令による大平・有浦地区までの集落が緊急避難実施 → 北股地区センターへ避難
・衣川区南股地区の天土地区の避難勧告地区の警戒・パトロール
・各区急傾斜地の県、市、警察、消防本部、消防団の緊急点検合同パトロール
・胆沢区愛宕地区の自主避難した地区集落の警戒・パトロール
・江刺区米里地区 集中豪雨により住宅等の床下浸水、急傾斜地崩壊による警戒

参集状況		
水沢区消防団	336人	発災当日の道路、施設、急傾斜地等のパトロール 延べ活動日数 7日
江刺区消防団	145人	6月14日、7月24日地震、集中豪雨の道路、施設、急傾斜地等のパトロール 延べ活動日数 6日
前沢区消防団	168人	発災当日の道路、施設、急傾斜地等のパトロール 延べ活動日数 3日
胆沢区消防団	379人	発災当日から7月26日まで 道路、施設、被災家屋、急傾斜地等のパトロール 延べ活動日数 10日
衣川区消防団	415人	発災当日から7月28日まで 道路、施設、被災家屋、急傾斜地等のパトロール、降雨時のパトロール 延べ活動日数 20日

(3) 一関市

一関市消防団の活動状況は、表5.2.3のとおりである。

表5.2.3 一関市消防団の活動状況

活動内容 月 日	被害状況調査	地域内巡回	磐井川警戒	へりポート警備	計
6月15日	455				455
6月16日		40			40
6月17日		30			30
6月18日		32			32
6月19日		42			42
6月20日	4		36		40
6月21日	2		36		38
6月22日			41	19	60
6月23日			40		40
6月24日			40		40
6月25日			40		40
6月26日			37		37
6月27日			37		37
6月28日			50		50
6月29日			44		44
10月24日までの合計	1,039	144	636	19	1,838

(出典) 栗原市提供資料、奥州市提供資料、一関市提供資料